

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花梨)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700468&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700468&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年1月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応の専門介護施設である。だが、多くの高齢者は合併症を持つての入所となる。認知症に対する対応力強化と共に、看護師を複数配置し日常保健管理に当たると共に、内科・精神科等の医療機関との連携を強化し、介護予防の導入後には、歯科医師による定期的訪問診療を加え、口腔衛生管理や義歯調整を実施することにより相応の効果を得て、本人やご家族からの信頼を得ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋づくりの夢のある建物で、玄関から癒やされる時間を過ごしてみませんかと優しく語りかける声が聞こえるように住んでみたい気持ちにさせる外観である。代表者をはじめ職員には、有資格者が多く、専門性が活かされ、全体が「口をださず、手をださず、見落とさず」の理念を合い言葉に、利用者の残存機能の低下を防ぐことを課題として、地域の中で自分らしい生き方ができるよう取り組んでいる。利用者の変化を受け止める鋭さが追求され、組織間での連携の良さが目立っている。さらに、人材育成体制が整っており、認知症施設に係わる職員として、資格取得や学習に対する職員一人ひとりの意識が高い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(花梨)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援する。この基本理念を実現するためには、何をすれば良いか、何をしたらいけないのかを日々検討しながら介護の質向上に努めること。	「口を出すな」「手を出すな」「見逃すな」の理念が求める根源は、自立を促し住み慣れた地域で生活を継続することであり、利用者の状態に合わせ今どのような支援が大切かを見極めたケアが実施されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議議定以来、夏祭り等のご招待を頂き地域住民の方との交流をはかれる良い機会と思い積極的に参加している。	自治会に加入しており、日常の労働を伴う行事には参加できないが、イベントを中心に参加し交流している。法人としての地域貢献として、小・中学校で認知症についての出前講座などの開催に取り組み、草の根的な付き合いを進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談にのったり運営推進会議で認知症についてやグループホームとは等のお話をする機会をもうけ理解に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や今後の目標それに向けて行政や他メンバーの方々から意見を頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、自治会、老人会、民生委員、また、家族の代表から外部の視点から意見を出してもらい、サービスに活かす場合も多い。日頃の取り組みの状況報告、見学してもらい、さらに内容が深まってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取ることで協力体制は出来ている。特に、高齢福祉課や他のサービス提供者とは情報を共有しより良いサービスの提供に努めている。	市との連携は深く、互いに地域全体の福祉の体制作りに向けての意見交換を行い、地域全体の福祉について情報交換を行い、共有とサービス向上につなげている。	広域で認知症を理解する取り組みを提案し、サポーターの養成などに中心的な役割を果たされたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという基本は全職員が理解している。ただし、安全確保のため拘束はご家族に説明し承諾を取り行うようにしている。また、拘束を外すタイミングは見逃さないように努めている。	ケアにおいて拘束はしないことの認識を全職員で周知している。安全確保のためやむを得ず拘束が必要な場合は、家族に実施時間と終了時間を説明し、了解を得ている。	身体拘束や虐待の防止等、職員は基本的な姿勢は理解しているが、研修が十分行われていないため、職員自身にも無意識に身体拘束等に陥っていないか不安がある。適切な研修を行い、記録も残されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修や講演会に参加し職員への理解を求めている。また、無意識下で行われている虐待が無いかチェックする姿勢をもっている。	/	/

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や担当者は必要な場合には、支援やアドバイスを行っている。担当者は研修にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行っている。医療連携体制、看取りの介護、入院後の退居に関すること等は、今後の方向性を家族とじっくり時間をかけて話し合ったうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族が意見や要望が言いやすい雰囲気や家族との良好な人間関係を作るよう努力している。また、毎月相談員の来訪を受け入居者の要望を聞き、施設側に伝えて頂ける体制を整え対応している。	毎月市の相談員が来訪し、利用者の要望・意見を聴き、ホームに伝える体制がある。また、面会時に家族からホームに対する要望意見を気楽に出せる環境ができています。家族からの意見や要望がサービス向上につながる事がホーム全体で理解されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者面談、職員の採用配置、運営全般についてなど出来る限り、職員意見を反映できるようにしている。	代表者と管理者の同じ思いが職員に理解されており、職員の思いや意見は代表者に直接届く体制ができています。職員の意見が反映され、運営の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者家族間の連絡調整にやりがいを求める雰囲気作りと、職場の改善等優れていると判断すれば相応の処遇を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア実践力の個人差解消のために教育をしている。内外の研修講習にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会には、創業時より加入し業者間の交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、本人・ご家族のニーズの把握に努めている。また、家族、入居前施設や病院、在宅支援センターなどからご本人に関する情報を収集し、医療・看護スタッフが協力してニーズに沿ったサービス提供が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や経緯、家族構成などを把握し、家族からの要望に耳を傾けている。要望に対し私たちが出来ること等を説明し、問題解決のための提案をしている。お話を聞くことで家族の思いに近づき信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行うことにより今必要としている援助を見極めるよう努めている。また、行政や医療機関への働きかけや中には、他サービス機関への窓口となることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の個性を尊重し、楽しい事を共有し共に笑ったり、時には悲しみ、怒り、不安等をそれぞれの思いを受け止め支えてゆける人間関係が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連絡を取り一緒に介護、協力していけるよう努力している。また、家族の悩みの相談などにも耳を傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は設けておらず、いつでも訪問していただけるようになっているが、馴染みの場所などに施設側から訪問するというようなことはしていない。また友人、知人へも家族の意思もある為こちらから働き掛けるようなことは難しい。	馴染みの人の来訪は受け入れているが、利用者が馴染みの人の許へ出掛けることは、家族の意向等もあり、本人の希望に添うことが困難なこともある。これまでの暮らしの中での関係の継続支援は、家族の協力を得ながら、利用者の状況に合わせた支援に努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に配慮して部屋を決めるなどの配慮をしている。人間関係に問題がある場合は、介入し棟を変更するなど可能な限り対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス移行時には、情報提供を行い新しい環境での円滑なサービス利用が出来るように努めている。また、退居後の経過の把握やいつでも相談をして頂ける関係を維持するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の入居者が今何を希望しており私たちに何が出来るのかを常に考え援助するように努めている。意思表示の困難な方は、家族からの情報収集や人となり、表情やしぐさなどから気持ちを汲み取り援助している。	「見逃すな」の理念を大切にし、利用者が今何を希望しているのかを常に目を向け、求めていることを的確に受け止め支援している。意思表示が困難な人には、家族からの情報等を参考に職員は理解し、表情やしぐさなど目配りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報収集や普段の何気ない会話からの情報を記録し職員間で情報の共有に努めている。今後のケアプランの参考にもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス開始以前の生活状況や家族構成、性格等を把握し心身の状態を確認している。自分で出来ることと介助が必要な部分を見極めたうえで必要な部分の援助をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療、介護、ご家族、本人の意見や希望を元に、今後の方向性を話し合いプランに反映させている。状態変化時や目標達成や期限時にはアセスメントをし検討をしている。	利用者の意向を第一とし、家族の意見を反映させたプランをベースに、関係者と話し合い、介護計画を作成している。状態の変化や目標達成など検討し、詳細な取り組みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は要点を的確に記入するように指導している。アセスメントや気づき、表情やレクの様子等を記入するようにしている。発熱などの状態変化時は重症記録に記入。プラン変更などは、申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望や援助、通院の手配や送迎の介助など日々変化する中での的確に判断し対処している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員が参加するようになり、地域での暮らしがより身近なものとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続を進めており家族の協力を経て通院している。かかりつけ医の継続が困難な場合はホームの連携のクリニック、歯科医師、精神科の往診、内服薬の処方への援助をしている。	かかりつけ医については、利用者の希望を大切に、家族の協力を得て対応してもらっている。家族の対応が無理な場合は、ホームが同行する場合もある。ホームの協力クリニック、歯科、精神科の医師が往診する体制を整えてある。	かかりつけ医の継続を大切にしているが、受診の際、家族の同行が困難な場合の対応を職員で行っていることで、業務の人員配置のやりくりが大変になっている現状の課題を管理者と職員間で充分議論検討されたい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師は、実際に現場に入り27名の状況や家族構成等すべてを把握している。ヘルパーの気づきや疑問に対し適切なアドバイスが出来るようになっている。また、常日頃一緒に介護している為、相談しやすい関係でもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の家族相談員との連絡を密に取ったりご家族に承諾後病状の説明を病院職員から受けるなどして適切な対応が出来るように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時を除き終末期のあり方については、時期を見て個々の家族と時間をかけて話し合いを進めている。ご家族や本人の意思を尊重し医師、看護師、ヘルパーが今後の本心の統一を図りそれぞれの立場で援助している。実際に何人もの方の看取りを経験している。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に家族との話し合いを行っている。個々の対応については時期をみて、家族と時間をかけて話し合い、家族を含め、医師やホーム関係者等が方針の統一を図り、それぞれが英知を出し合って援助している。過去にも何例かの看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ことある毎に勉強会を行い対応については指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な消防訓練を実施している。今年度は夜勤を想定し職員2人での避難訓練を実施し消防署の指導を受けた。その際実際に、煙を発生させる煙体験も実施した。運営推進会議でも避難場所の説明を行った。	災害時の訓練は、年に2回実施している。消防署の指導のもと、夜勤を想定した職員2名体制での訓練も実施されている。運営推進会議においてもホームの避難場所・経路の説明をし、協力体制を依頼した。職員に消防退職者がいるため、随時、きめ細かな安全確保が実施されている。	さらに、地域の協力体制を充実させ、住民参加の災害訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ一つ一つに配慮している時として無意識に取った言動が尊厳やプライバシーを傷つけてしまっている事が外部からの指摘により認識したことがあった。慣れ親しみと個人の尊厳との区別をつけなければならぬと職員間で話し合った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の思いを表現出来ない方が多いが、食べたい物や欲しい物こんなことがしたいというような思いを表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、レクや体操等は強制することなく促しはするが、自発性に任せている。テレビ、ラジオ、嗜好品等も自由であるが日常生活に支障のない範囲で、本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者には化粧の援助、マニキュアの施行などご本人の希望に合わせて援助している。パーマ白髪染め、カットなどの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し入居者が食べたい物を多く取り入れ提供するようにしている。テーブル拭きなども日課にしている利用者もある。配膳、下膳も能力に合わせ介助している。	栄養士の指導の基に、季節の食材を充分に取り入れ、利用者希望に添うよう食事を提供している。利用者の残存能力を活かして食事の準備等も手伝ってもらい、楽しい雰囲気での食事ができるよう努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算までは行っていないが、主食、副食、野菜などのバランスを考慮して献立を立てるようにしている。嚥下能力等に合わせた食事形態にして提供し、摂取量の記録を行っている。食事以外の栄養補助剤も必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ介助している。定期的に歯科医師の診察を受け口腔管理に努めている。入れ歯の消毒や義歯の管理も行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンにあわせた誘導を行いトイレでの排泄を促している。夜間のオムツ交換に対しては、講習会に参加し実際にオムツを当てて体験したり、ギャザーの有効利用の指導を受け個々に合わせたパット選びや交換回数を検討し実施している。	自立支援を促すために、個々の排泄パターンを把握し、誘導している。今年はオムツメーカーから講師を派遣してもらい勉強会を開き、職員が実際体験することで利用者の気持ちや交換回数、経費等について検討する機会を得た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い3日排便がなければ処置を行っている。処置をしなくても排便があるように水分摂取量なども調整している。個人的には、便秘体操を毎晩行い自分で便秘予防に努めておられる入居者もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの入居者に入浴介助が必要であるため曜日と時間帯は決まっている。入浴拒否者に対して声かけや場面設定の工夫により入浴につなげている。	利用者の大半は入浴介助が必要であり、週2回、曜日と時間を定め実施している。入浴拒否の人に対しては、職員が工夫し入浴につなげている。入浴支援の得意な職員が活躍しており、季節に応じた足浴やシャワー浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせ自由に過ごしていただいている。車椅子の方などは、ベットの休憩時間を設けるなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず2人で確認し誤薬防止や吞み忘れ防止に努めている。薬内容に関しては、職員が把握しやすいように処方箋のコピーを設置している。また薬変更や一時的な内服に関しても把握し、副作用を見逃さないように指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や紅葉、花火、運動会などの行事を計画している。女性には洗濯たたみ、梅干し、干し柿作り、おはぎ作りの手伝いや、男性には、掃除や畑仕事等を能力を生かした活動が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、車椅子での外出も支援している。この秋には、クリスマス会の参考にするため資料館などにも外出した。美容院への送迎や車椅子の方への自宅への外出送迎等も行っている。	車の往来も少なく、近くの小学校からは子どもの声が聞こえ、懐かしい唱歌が聞こえる。日々の散歩、郊外へのドライブ、車椅子の外出支援も含めて支援している。年間の行事も利用者の楽しみであり、準備のための外出もある。利用者の希望に添った支援を行っている。	

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て小額の現金を持っていたり入居者もある。また、普段は持っていないが、外出時にはお金を財布に入れ手渡し支払いの援助をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話などの設置はなく自由に電話がかけられるという状況ではない。ただ、可能ならば職員がダイヤルをして話をしてもらうというようなことはある。また、暑中お見舞いや年賀状の作成や送付の援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇の花を飾ったり落ち着き親しみやすい空間作りに配慮している。ソファに座ってお話したり、カーペットに横になりマッサージをしたりリラックスできる空間はある	居室より共同の部屋に利用者が集まり、語り、趣味を生かした時間を楽しく過ごしている。ソファにゆったり座ってくつろいだり、カーペットに横になりマッサージを楽しむ利用者も多く、部屋は全体的にシンプルで癒やしの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中でも自分の所定の位置があり落ち着ける場所を持っておられる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明をし、馴染みの物を持ってきていただいているが、限られたスペースなので配慮していただき、写真や思い出の品を持ってきていただいている。	入居時に利用者や家族に説明し、馴染みの物を持ち込んでもらい、家族と共に配置した好みの部屋で過ごしている。自分に合った飾り付けがされ、ゆとりと豊かさを感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝え歩きや車椅子が入り混ざっており常に見守りを安全に努めている。夜間はポータブルの設置し個人の能力に配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(桜の木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症対応の専門介護施設である。だが、多くの高齢者は合併症を持つての入所となる。認知症に対する対応力強化と共に、看護師を複数配置し日常保険管理に当たると共に、内科・精神科等の医療機関との連携を強化し、介護予防の導入後には、歯科医師による定期的訪問診療を加え、口腔衛生管理や義歯調整を実施することにより相応の効果を得て、本人やご家族からの信頼を得ている。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(檜の木)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援する。この基本理念を実現するためには、何をすれば良いか、何をしたらいけないのかを日々検討しながら介護の質向上に努めること。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議発足以来、夏祭り等のご招待を頂き地域住民の方との交流をはかれる良い機会と思い積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談にのったり運営推進会議で認知症についてやグループホームとは等のお話をする機会をもうけ理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や今後の目標それに向けて行政や他メンバーの方々から意見を頂きサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取ることで協力体制は出来ている。特に、高齢福祉課や他のサービス提供者とは情報を共有しより良いサービスの提供に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという基本は全職員が理解している。ただし、安全確保のため拘束はご家族に説明し承諾を取り行うようにしている。また、拘束を外すタイミングは見逃さないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修や講演会に参加し職員への理解を求めている。また、無意識下で行われている虐待が無いかチェックする姿勢をもっている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や担当者は必要な場合には、支援やアドバイスを行っている。担当者は研修にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行っている。医療連携体制、看取りの介護、入院後の退居に関する事等は、今後の方向性を家族とじっくり時間をかけて話し合ったうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族が意見や要望が言いやすい雰囲気や家族との良好な人間関係を作るよう努力している。また、毎月相談員の来訪を受け入居者の要望を聞き、施設側に伝えて頂ける体制を整え対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者面談、職員の採用配置、運営全般についてなど出来る限り、職員意見を反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者家族間の連絡調整にやりがいを求める雰囲気作りと、職場の改善等優れていると判断すれば相応の処遇を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア実践力の個人差解消のために教育をしている。内外の研修講習にも積極的に参加し質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会には、創業時より加入し業者間の交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、本人・ご家族のニーズの把握に努めている。また、家族、入居前施設や病院、在宅支援センターなどからご本人に関する情報を収集し、医療・看護スタッフが協力してニーズに沿ったサービス提供が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や経緯、家族構成などを把握し、家族からの要望に耳を傾けている。要望に対し私たちが出来ること等を説明し、問題解決のための提案をしている。お話を聞くことで家族の思いに近づき信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行うことにより今必要としている援助を見極めるよう努めている。また、行政や医療機関への働きかけや中には、他サービス機関への窓口となることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の個性を尊重し、楽しい事を共有し共に笑ったり、時には悲しみ、怒り、不安等をそれぞれの思いを受け止め支えてゆける人間関係が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも常に連絡を取り一緒に介護、協力していけるよう努力している。また、家族の悩みの相談などにも耳を傾けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は設けておらず、いつでも訪問していただけるようになっているが、馴染みの場所などに施設側から訪問するというようなことはしていない。また友人、知人へも家族の意思もある為こちらから働き掛けるようなことは難しい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に配慮して部屋を決めるなどの配慮をしている。人間関係に問題がある場合は、介入し棟を変更するなど可能な限り対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス移行時には、情報提供を行い新しい環境での円滑なサービス利用が出来るように努めている。また、退居後の経過の把握やいつでも相談をして頂ける関係を維持するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の入居者が今何を希望しており私たちに何が出来るのかを常に考え援助するように努めている。意思表示の困難な方は、家族からの情報収集や人となり、表情やしぐさなどから気持ちを汲み取り援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報収集や普段の何気ない会話からの情報を記録し職員間で情報の共有に努めている。今後のケアプランの参考にもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス開始以前の生活状況や家族構成、性格等を把握し心身の状態を確認している。自分で出来ることと介助が必要な部分を見極めたうえで必要な部分の援助をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療、介護、ご家族、本人の意見や希望を元に、今後の方向性を話し合いプランに反映させている。状態変化時や目標達成や期限時にはアセスメントをし検討をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は要点を的確に記入するように指導している。アセスメントや気づき、表情やレクの様子等を記入するようにしている。発熱などの状態変化時は重症記録に記入。プラン変更などは、申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望や援助、通院の手配や送迎の介助など日々変化する中での的確に判断し対処している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員が参加するようになり、地域での暮らしがより身近なものとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続を進めており家族の協力を経て通院している。かかりつけ医の継続が困難な場合はホームの連携のクリニック、歯科医師、精神科の往診、内服薬の処方の援助をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師は、実際に現場に入り27名の状況や家族構成等すべてを把握している。ヘルパーの気づきや疑問に対し適切なアドバイスが出来るようになっている。また、常日頃一緒に介護している為相談しやすい関係でもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の家族相談員との連絡を密に取ったりご家族に承諾後病状の説明を病院職員から受けるなどして適切な対応が出来るように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時を除き終末期のあり方については、時期を見て個々の家族と時間をかけて話し合いを進めている。ご家族や本人の意思を尊重し医師、看護師、ヘルパーが今後の本心の統一を図りそれぞれの立場で援助している。実際に何人もの方の看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ことある毎に勉強会を行い対応については指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な消防訓練を実施している。今年度は夜勤を想定し職員2人での避難訓練を実施し消防署の指導を受けた。その際実際に、煙を発生させる煙体験も実施した。運営推進会議でも避難場所の説明を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ一つ一つに配慮している時として無意識に取った言動が尊厳やプライバシーを傷つけてしまっている事が外部からの指摘により認識したことがあった。慣れ親しみと個人の尊厳との区別をつけなければならぬと職員間で話し合った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の思いを表現出来ない方が多いが、食べたい物や欲しい物こんなことがしたいというような思いを表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、レクや体操等は強制することなく促しはするが、自発性に任せている。テレビ、ラジオ、嗜好品等も自由であるが日常生活に支障のない範囲で、本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者には化粧の援助、マニキュアの施行などご本人の希望に合わせて援助している。パーマ白髪染め、カットなどの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し入居者が食べたい物を多く取り入れ提供するようにしている。テーブル拭きなども日課にしている利用者もある。配膳、下膳も能力に合わせ介助している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算までは行っていないが、主食・副食・野菜などのバランスを考慮して献立を立てるようにしている。嚥下能力等に合わせた食事形態にして提供し、摂取量の記録を行っている。食事以外の栄養補助剤も必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ介助している。定期的に歯科医師の診察を受け口腔管理に努めている。入れ歯の消毒や義歯の管理も行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンにあわせた誘導を行いトイレでの排泄を促している。夜間のオムツ交換に対しては、講習会に参加し実際にオムツを当てて体験したり、ギャザーの有効利用の指導を受け、個々に合わせたパット選びや交換回数を検討し実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い3日排便がなければ処置を行っている。処置をしなくても排便があるように水分摂取量なども調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの入居者に入浴介助が必要であるため曜日と時間帯は決まっている。自立の方で毎日入りたいと希望がある方は、毎日入浴していただいている。また、入浴回数を増やして対応している入居者もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせ自由に過ごしていただいている。車椅子の方などは、ベッドの休憩時間を設けるなど配慮している。食事、おやつ、体操等の一日の流れは一応決まっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず2人で確認し誤薬防止や吞み忘れ防止に努めている。薬内容に関しては、職員が把握しやすいように処方箋のコピーを設置している。また薬変更や一時的な内服に関しても把握し、副作用を見逃さないように指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケをレクに取り入れる事が多い。花見や紅葉、花火、運動会など季節の行事を計画している。女性には洗濯たみ、梅干し、干し柿作り、おはぎ作りの手伝いや、男性には、掃除や畑仕事等を能力を生かした活動が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、車椅子での外出も支援している。この秋には、クリスマス会の参考にするため資料館などにも外出した。美容院への送迎や車椅子の方への自宅への外出送迎等も行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て小額の現金を持っていたり入居者もある。また、普段は持っていないが、外出時にはお金を財布に入れ手渡し支払いの援助をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話などの設置はなく自由に電話がかけられるという状況ではない。ただ、可能ならば職員がダイヤルをして話をしてもらうというようなことはある。また、暑中お見舞いや年賀状の作成や送付の援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇の花を飾ったり落ち着き親しみやすい空間作りに配慮している。ソファーに座ってお話をしたり、カーペットに横になり、マッサージをしたりリラックスできる空間はある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中でも自分の所定の位置があり落ち着ける場所を持っておられる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明をし、馴染みの物を持ってきていただいているが、限られたスペースなので配慮していただき、写真や思い出の品を持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝え歩きや車椅子が入り混ざっており常に見守りを安全に努めている。夜間はポータブルの設置し個人の能力に配慮している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社 介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花水木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>認知症対応の専門介護施設である。だが、多くの高齢者は合併症を持つての入所となる。認知症に対する対応力強化と共に、看護師を複数配置し日常保険管理に当たると共に、内科・精神科等の医療機関との連携を強化し、介護予防の導入後には、歯科医師による定期的訪問診療を加え、口腔衛生管理や義歯調整を実施することにより相応の効果を得て、本人やご家族からの信頼を得ている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p></p>
---------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(花水木)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援する。この基本理念を実現するためには、何をすれば良いか、何をしたらいけないのかを日々検証しながら介護の質向上に努めること。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議発足以来、夏祭り等のご招待を頂き地域住民の方との交流をはかれる良い機会と思い積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談にのったり、運営推進会議で認知症についてやグループホームとは等のお話をする機会をもうけ理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や今後の目標それにむけて行政や他メンバーの方々から意見を頂きサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取ることで協力体制は出来ている。特に高齢福祉課や他のサービス提供者とは情報を共有し、より良いサービスの提供に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという基本は全職員が理解している。ただし、安全確保のため拘束はご家族に説明し承諾を取り行うようにしている。また、拘束を外すタイミングは見逃さないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修や講演会に参加し、職員への理解を求めている。また、無意識下で行われている虐待が無いかチェックする姿勢もっている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や担当者は必要な場合には、支援やアドバイスを行っている。担当者は研修にも積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明を行っている。医療連携体制、看取りの介護、入院後の退居に関すること等は、今後の方向性を家族とじっくり時間をかけ話し合ったうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族が意見や要望が言いやすい雰囲気や家族との良好な人間関係を作るよう努力している。また、毎月相談員の来訪を受け入居者の要望を聞き、施設側に伝えて頂ける体制を整え対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者面談、職員の採用配置、運営全般についてなど出来る限り、職員意見を反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者家族間の連絡調整にやりがいを求める雰囲気作りと、職場の改善等優れていると判断すれば相応の処遇を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア実践力の個人差解消のために教育をしている。内外の研修講習にも積極的に参加し質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会には、創業時より加入し事業間の交流や情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い、本人・ご家族のニーズの把握に努めている。また、家族、入居前施設や病院、在宅支援センターなどからご本人に関する情報を収集し、医療・介護スタッフが協力してニーズにそったサービス提供が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状況や経緯、家族構成などを把握し、家族からの要望に耳を傾けている。要望に対し私たちが出来ること等を説明し問題解決のための提案をしている。お話を聞くことで、家族の思いに近づき信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、見学を事前に行うことにより今必要としている援助を見極めるよう努めている。また、行政や医療機関への働きかけや中には、他サービス機関への窓口となることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の個性を尊重し、楽しいことを共有し共に笑ったり、時には悲しみ、怒り、不安等をそれぞれの思いを受け止め支えてゆける人間関係が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも常に連絡を取り一緒に介護、協力していけるよう努力している。また、家族の悩みの相談などにも耳を傾けている。成年後見に関する申請の相談援助もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は設けておらず、いつでも訪問していただけるようになっているが、馴染みの場所などに施設側から訪問するというようなことはしていない。また友人、知人へも家族の意思もある為こちらから働き掛けるようなことは難しい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に配慮して部屋を決めるなどの配慮をしている。人間関係に問題がある場合は、介入し棟を変更するなど可能な限り対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービス移行時には、情報提供を行い新しい環境での円滑なサービス利用が出来るように努めている。また、退居後の経過の範囲やいつでも相談をして頂ける関係を維持するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の入居者が今何を希望しており私たちに何が出来るのかを常に考え援助するように努めている。意思表示の困難の方は、家族からの情報収集や人となり、表情やしぐさなどから気持ちを汲み取り援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報収集や普段の何気ない会話からの情報を記録し職員間で情報の共有に努めている。今後のケアプランの参考にもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス開始以前の生活状況や家族構成、性格等を把握し心身の状態を確認している。自分で出来ることと介助が必要な部分を見極めたうえで必要な部分の援助をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療、介護、ご家族、本人の意見や希望を元に、今後の方向性を話し合いプランに反映させている。状態変化時や目標達成や期限時にはアセスメントをし検討をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は要点を的確に記入するように指導している。アセスメントや気づき、表情やレクの様子等を記入するようにしている。発熱などの状態変化時は、重症記録に記入。プラン変更などは申し送りノートに記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望や援助、通院の手配や、送迎の介助など日々変化する中での的確に判断し対応している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員が参加するようになり地域での暮らしがより身近なものとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の継続をすすめており家族の協力を経て通院している。かかりつけ医の継続が困難な場合は、ホームの連携のクリニック、歯科医院、精神科の往診、内服薬の処方への援助をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師は実際に現場に入り27名の状況や家族構成等すべてを把握している。ヘルパーの気付きや疑問に対し適切なアドバイスが出来るようになってきている。また、常日頃一緒に介護している為相談しやすい関係でもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の介護相談員との連携を密に取ったりご家族に承諾後病状の説明を病院職員から受けるなどして適切な対応が出来るように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時を除き終末期のあり方については、時期を見て個々の家族との時間をかけて話し合いを進めている。ご家族や本人の意思を尊重し医師、看護師、ヘルパーが今後の方針の統一を図りそれぞれの立場で援助している。実際に何人もの方の看取りを経験している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ことある毎に勉強会を行い対応については指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な消防訓練を実施している。今年度は夜勤を想定し職員2名での避難訓練を実施し消防署の指導を受けた。その際実際に、煙を発生させる煙体験も実施した。運営推進会議でも避難場所の説明を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ一つ一つに配慮している時として無意識にとった言動が尊厳やプライバシーを傷つけてしまっている事が外部からの指摘により認識したことがあった。慣れ親しみと個人の尊厳との区別をつけなければならぬと職員間で話し合った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分の思いを表現出来ない方が多いが、食べたい物や欲しい物、こんな事がしたいというような思いを表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、レクや体操等は強制することなく促しはするが、自発性に任せている。テレビ・ラジオ・嗜好品等も自由であるが日常生活に支障のない範囲で、本人の希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者には化粧の援助、マニキュアの施行などご本人の希望に合わせて援助をしている。パーマ・白髪染め・カットなどの支援も行っている。毎日、綺麗にお化粧をせれている方があり、マニキュアや化粧品などの購入の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し入居者が食べたい物を多く取り入れ提供するようにしている。テーブル拭きなども日課にしている利用者もあり。配膳、下膳も能力に合わせ介助している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算までは行っていないが、主食・副食・野菜などのバランスを考慮して献立を立てるようにしている。嚥下能力等に合わせた食事形態にして提供し、摂取量の記録を行っている。食事以外の栄養補助剤も必要な方には提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、個々の能力に合わせ介助している。定期的に歯科医師の診察を受け口腔管理に努めている。入れ歯の消臭や義歯の管理も行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンにあわせて誘導を行いトイレでの排泄を促している。夜間のオムツ交換に対しては、講習会に参加し実際にオムツをあてて体験したり、ギャザーの有効利用の指導を受け、個々に合わせたパット選びや交換回数を検討し実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い3日排便がなければ処置を行っている。処置をしなくても排便があるように水分摂取量なども調節している。個人的には便秘体操を毎晩行い、ご自分で便秘予防に努めておられる入居者もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの入居者に入浴介助が必要である為、曜日と時間他は決まっている。一番風呂を好む方が多く、曜日によって入浴の順番を入れ替えるなど考慮している。入居拒否者に対しては、声かけや場面設定の工夫により入浴につなげている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせて自由に過ごしていただいている。車椅子の方などは、ベッドでの休息時間を設けるなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず2人で確認し誤薬防止や吞み忘れ防止に努めている。薬内容に関しては、職員が把握しやすいように処方箋のコピーを設置している。また薬変更や一時的な内服に関しても把握し、副作用を見逃さないように指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や紅葉、花火、運動会など季節の行事を計画している。洗濯物たたみ、梅干しや干し柿作り、おはぎ作りの手伝い等、能力を生かした活動が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、車椅子での外出も支援している。この秋には、クリスマス会の参考にす為資料館などにも外出した。美容院への送迎や車椅子の方の自宅への外出送迎等も行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て小額の現金を持っていたり入居者もある。また、普段は持っていないが、外出時にはお金を財布に入れ手渡し支払いの援助をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話などの設置はなく自由に電話がかけられるという状況ではない。ただ、可能ならば職員がダイヤルをして話をしてもらうというようなことはある。また、暑中お見舞いや年賀状の作成や送付の援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇の花を飾ったり落ち着いた親しみやすい空間作りに配慮している。ソファーに座ってお話をしたり、カーペットに横になったり、マッサージをしたりリラックスできる空間はある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中にも自分の固定の位置があり落ち着ける固有の場所をもっておられる方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明をし、馴染みの物を持ってきていただいているが、限られたスペースなので配慮していただき、写真や思い出の品を持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝え歩きや車椅子が入り混じっており常に見守りを安全に努めている。夜間はポータブルの設置し個人の能力に応じた配慮をしている。		